

問1 5世紀ごろ、日本に漢字や経典を伝えたと言われる、百済から来た人物は誰？

1. 王仁 2. 阿知使主 3. 恵美押勝 4. 弓月君

問2 日本各地で首長の墓が作られ、広い範囲で勢力を広げていた当時の政治的なまとまりを何という？

1. 飛鳥政権 2. ヤマト王権 3. 平安政権 4. 奈良政権

問3 埼玉県行田市の埼玉古墳群のひとつで、金象嵌の銘文が刻まれた鉄剣が出土したことで知られる古墳は何という？

1. 江田船山古墳 2. 石舞台古墳 3. 稲荷山古墳 4. 高松塚古墳

問4 ヤマト王権の支配力が拡大する中、全国に広まった巨大な墳墓の形を何という？

1. 円墳 2. 方墳 3. 前方後方墳 4. 前方後円墳

問5 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？

1. 平安政権 2. ヤマト王権 3. 奈良政権 4. 飛鳥政権

問6 熊本県和水町にあり、稲荷山古墳と同じ大王の名が刻まれた鉄刀が出土したことで知られる古墳は何という？

1. 石舞台古墳 2. 高松塚古墳 3. 江田船山古墳 4. 稲荷山古墳

問7 3世紀後半から奈良盆地を中心に広がり、各地の豪族を従えて日本列島の広範囲に勢力を及ぼした政治連合は何という？

1. ヤマト王権 2. 奈良政権 3. 飛鳥政権 4. 平安政権

問8 6世紀半ばに、日本の欽明天皇へ仏像や経典を贈り、仏教を公式に伝えた百済の王は誰？

1. 欽明天皇 2. 用明天皇 3. 敏達天皇 4. 聖明王

問9 古墳時代に輸入された鉄を利用して作られ、農業生産力を向上させた道具を何という？

1. 青銅製農具 2. 石製農具 3. 鉄製農具 4. 木製農具

問10 ヤマト王権が鉄資源を求めて使者を派遣した、中国の当時の王朝を何という？

1. 南朝 2. 北朝 3. 東晋 4. 西魏

問11 ヤマト王権が、軍事的な指揮権を認めてもらうために使者を送り、鉄資源などの確保を目指した地域はどこ？

1. 琉球諸島 2. 朝鮮半島 3. 中国大陸 4. 日本列島

問12 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？

1. 封土 2. 壁画 3. 木棺 4. 副葬品

問13 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？

1. 大王 2. 天皇 3. 関白 4. 将軍

問14 中国から軍事的な指揮権を認められ、国内での権力強化を図った王たちの総称を何という？

1. 推古天皇 2. 天智天皇 3. 倭の五王 4. 聖徳太子

問15 5世紀のヤマト王権が、外交のために使者を派遣していた中国の王朝はどこ？

1. 齊 2. 南朝 3. 東晋 4. 宋

問16 ヤマト王権の支配力が関東地方まで及んでいたことを示す、埼玉県から出土した重要な鉄剣が見つかった古墳を何という？

1. 石舞台古墳 2. 高松塚古墳 3. 江田船山古墳 4. 稲荷山古墳

答え合わせ・解説

問1	答え 1 王仁	王仁は伝説的な人物として『古事記』や『日本書紀』に記されており、百済の王から日本へ派遣されたとされています。彼は漢字を用いて記録する技術や、中国の古典を日本に伝えました。彼によってもたらされた知識は、当時の日本の知識層にとっての教科書となり、日本の文字文化の発展に決定的な影響を与えました。
問2	答え 2 ヤマト王権	ヤマト王権は、古墳の築造や鉄製品の供給などを通じて各地の豪族を統制しました。王は各地の豪族に地位や官職を与え、権力体制に組み込んでいくことで日本全国への支配を強めました。前方後円墳が全国に築かれていることは、この勢力が全国に及んでいた証拠といえます。
問3	答え 3 稲荷山古墳	稲荷山古墳は、埼玉県行田市の埼玉古墳群にある前方後円墳です。この古墳から出土した鉄剣には、115文字からなる金象嵌の銘文が刻まれていました。この銘文により、当時の大王の名が判明し、ヤマト王権の支配が遠方まで及んでいたことが証明されました。
問4	答え 4 前方後円墳	前方後円墳は、四角い「前方部」と円形の「後円部」を組み合わせた特徴的な形状で、規模の大きさはそのまま権力の大きさを表していました。近畿地方から始まり、王権の広がりとともに全国へと普及していきました。
問5	答え 2 ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問6	答え 3 江田船山古墳	江田船山古墳は、熊本県に位置する5世紀から6世紀頃の古墳です。ここから出土した鉄刀には、稲荷山古墳のものと同じワカタケル大王の名が記されており、ヤマト王権の影響力が九州の地まで深く及んでいたことを示しています。また、これらの出土品は、当時の武器や装飾品の様式を知るためにも重要です。
問7	答え 1 ヤマト王権	ヤマト王権は、現在の奈良県周辺を拠点とし、強大な力を持った豪族の連合体です。大王を頂点として組織され、各地の豪族を服属させることで支配地域を拡大していきました。朝鮮半島との外交や、大陸の進んだ技術の導入に積極的に取り組んだのが特徴です。
問8	答え 4 聖明王	聖明王は、外交的な贈り物として仏教の教えを選びました。欽明天皇に献上された仏像や経典は、日本にとって初めて本格的に触れる異国の教えでした。これが日本に初めて正式な宗教としての仏教が根付くきっかけとなりました。
問9	答え 3 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鍬（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍事力強化にも大きく貢献しました。
問10	答え 1 南朝	ヤマト王権は、中国との外交関係を通じて、その権威を借りることで半島への影響力を強めようとしてしました。中国へ使者を派遣して朝貢することで、最新の技術や鉄資源を優先的に入手しようとしたのです。当時の中国は南北朝時代であり、南方に位置する「南朝」と主に外交関係を持っていました。
問11	答え 2 朝鮮半島	ヤマト王権は、半島南部の諸国との交流を強めることで、安定した鉄の供給を図りました。また、半島内での権益を確保するために中国の王朝へ使いを送り、自身の軍事的な立場を認めさせようとしてしました。
問12	答え 4 副葬品	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。これらは当時、非常に貴重な宝物や技術の象徴でした。また、墳丘の上には土製の埴輪が並べられ、埋葬された人物の威厳を周囲に示しました。
問13	答え 1 大王	この時期の最高権力者は「大王（おおきみ）」という称号と呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。埼玉県や熊本県の古墳から出土した鉄剣の銘文にも「ワカタケル大王」という記述が見られ、当時の王権が地方へ影響力を持っていたことがわかります。
問14	答え 3 倭の五王	宋書という中国の歴史書に登場する「讃・珍・済・興・武」の5人の王を指します。彼らは南朝の皇帝から「倭王」として認められ、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを追認されました。この外交的承認を利用することで、彼らは国内の豪族に対して優位に立ち、自らの権威をより確固たるものにしました。
問15	答え 2 南朝	ヤマト王権の指導者たちは、半島での影響力を強める正当性を得るため、南朝の皇帝へ使者を派遣しました。朝貢と呼ばれる形式をとることで、中国皇帝から將軍の号を授かり、国内の支配を強化しようとしてしました。
問16	答え 4 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌で文字が刻まれていました。この文字には「ワカタケル大王」という当時のヤマト王権の王の名前と、その王に仕えた人物の系譜が記されています。これによって、関東地方の豪族がヤマト王権と密接な関係を持っていたことが証明されました。